

Conflicting Truths

2009年12月2日

1 単語

p59 最後のページ		
行	単語	意味
1	Croatian	(形) クロアチアの
3	apologia	(名) 弁明書
5	Croat	(名) クロアチア人
7	transform	(動) 変容する、変わる、変換する
10	vividly	(副) 鮮明に、はっきりと
11	folklore	(名) 民間伝承
	overwhelming	(形) 圧倒的な、不可抗力の
14	mark	(動) ~を表す
	Serbian	(形) セルビア人の
15	uprising	(名) 暴動、反乱
16	celebration	(名) 祝賀、賞賛
17	culminate	(動) 最高潮に達する
	unveil	(動) 明らかにする、ベールをとる
20	monastery	(名) 修道院、僧院
23	stall	(名) 露店
24	emblem	(動) 象徴、表象
	purvey	(動) 調達する、提供する
29	deed	(名) 行動、行為
36	equivalent	(名) 等価、対価
37	flit	(動) 飛んでいく、過ぎていく
40	decrepit	(形) 老いぼれの、老朽化した
41	faceless	(形) 顔のない、主体性のない
	outskirt	(名) 町はずれ、郊外、周辺
42	interpretation	(名) 解釈、説明
	justification	(名) 正当化、弁明
50	butcher	(動) ~を殺す、台無しにする
51	slaughter	(動) ~を虐殺する
	grave	(名) 墓、死
52	serially	(副) 連続的に
53	headmaster	(名) 校長
60	persecute	(動) ~を迫害する、しいたげる
61	anonymous	(形) 匿名の、名が分らない
	sprawl	(名) まとまりのない町並み
62	bizarre	(名) 風変わり

p59 最後のページ

行	単語	意味
63	disguise	(名) 変装
71	diplomat	(名) 外交官
81	imperative	(名) 義務、責務
83	mockery	(名) あざけり、からかい、偽
84	genocide	(名) 組織的大量虐殺
85	undermine	(動) 徐々に衰える、むしばむ
86	warlord	(名) 将軍
	embolden	(動) ~を大胆にする、励ます
88	apportion	(動) 配分する、振り分ける
92	animation	(名) 活性、生气

2 全体のまとめ

今回は、ページ数も少なく、以前に比べて随分読みやすかった気がします。(これが、本来の英語二列だろうと思いますが、今までのが凄まじかったおかげで、これがひどく楽に見えてきます。) まあ、いいや。

ボスニアのセルビア系政治家のラドヴァン・カラジッチの話らしいです。最初のパラグラフでは、"Radovan・Karadzic" と叫んでいる少年が導入として出てきます。(その描写は省略)2002年の7月11日に、ボスニア(による大量虐殺)戦争から7年の月日がたったそうです。この戦争では、国連によって安全地域と認められたスレブレニカ近郊でさえ、ボスニアのセルビア軍によって、イスラーム教徒の大量虐殺が行われたそうです。それから数年経って、たくさんの墓地が発見され、遺体が掘り出されて再埋葬のために親族が招かれたそうです。冒頭の少年は、スレブレニカでの共同墓地に参列していた人の一人だそうです。ここから導入が終わり、ラドヴァン・カラジッチの話に変わっていきます。

ラドヴァン・カラジッチは前のボスニアのセルビア大統領?で戦争犯罪人として、国際指名手配されていた人です。ボスニア戦争は、20世紀最大の残虐な戦争だったそうです。(詳しい被害者の数などは省略)この戦争は、(レイプ、拷問、切断?、殺人)などの言いようもない残酷行為に特徴がありました。1995年に戦争が終わり、ボスニアが平和になると、ボスニアに関する報道は熱が冷めていったそうです。しかし、ここで次に注目されたのが、多くの人による捕縛の手から逃れていたラドヴァン・カラジッチの行方です。(以下、カラジッチとして省略。)筆者が、国の政治的・社会的状況について知れば知るほど、カラジッチの問題がボスニアの上に暗雲として立ち込めてきたそうです。ボスニアのセルビア系の指導者であったカラジッチは紛争の首謀者みたいなものらしいです。彼は、ボスニア・ヘルツェゴビナ・セルビア人共和国^{*1}の大統領で、ボスニアのセルビア系軍隊の将軍でもあったそうです。セルビア人にとっては、カラジッチはユーゴスラビアが崩壊したときに、セルビア人の利益を守ったヒーローでした。一方で、セルビア人の侵略をうけた被害者にとっては、悪魔の典型でした。なぜ、彼が捕まらないのか?誰もこれに答えることができず、彼は自分の自由を守るために秘密の取引をしたのだ、とかいう怪しい論であふれていたそうです。

著者は、なぜ彼が逃れることができたのか調査してみたいらしいです。でも、噂の類(具体的なのは、省略。)はたくさん出てきたらしいのですが、これといった証拠は何一つ明らかにならなかったそうです。それどころかむしろ、著者がカラジッチについて調べるほど、ボスニアという地域の政治や歴史に夢中になってきたそうです。ボスニア戦争が起こった原因だけではなく、その間に起こったことにもたくさんの真実や解釈がありました。起こったことに関する真実は、疑い、隠された予定表、過去の解釈によって脚色されたものだったそうです。(具体的なところは省略。)

カラジッチは自分の事を運命に導かれたセルビアの英雄的な指導者だとか思ってたらし

^{*1} その領土はセルビア人自治区を含むものであり、この共和国はユーゴスラビア共和国の一部であるとした。

いです。彼は、詩人でもあったそうです。カラジッチは、戦争に過去の歴史を持ちこんだ見方をしたそうです。カラジッチは、ユーゴスラビアの歴史のパンドラの箱を開けてしまったそうです。ボスニアの3民族の対立を単純化し、悪化させるために、歴史的なレッテルを貼り付けたのであった。イスラム教徒にはトルコ人を、セルビア人にはチェトニク^{*2}を、クロアチアには、ウスタシャ^{*3}という歴史的レッテルをつけたのです。カラジッチは、セルビア人に第二次世界大戦中の日々に耳を傾けさせ、敵によって狙われているセルビアの不安な部分を語って、セルビアは今、脅威にさらされていると言ったそうです。だから、多くのセルビア人はセルビア戦争は、第二次世界大戦の延長だと思っていたそうです。残虐行為は、過去の残虐行為によって正当化されていました。つまり、昔攻撃された仕返しを、今やってやろうとしたということだと思います。

著者は、セルビア人による大量虐殺に異議を唱えようとすると同時に、第二次世界大戦中に、クロアチアのウスタシャによって、多数のセルビア人、ユダヤ人、ローマ人が殺害された事実はどうなるのか？ということを感じてしまうそうです。かといって、クロアチア人やイスラム教徒の立場に立てば、1992-1995年の大量虐殺はどうなるのか？って考えてしまうそうです。歴史というのは、人々の心に生きついでしまうそうです。

著者は2004年に、セルビア人がトルコに蜂起した1804年から200年たったことを記念するセレモニーに出たそうです。(このとき、カラジッチはまだ逃走中でしたが・・・) まあ、その蜂起の首謀者の像のベールが取られると、そのセレモニーは最高潮に達したそうです。(ここはどうでもいいです、たぶん。)このセレモニーに著者は遅刻してしまい、セレモニーは終わりかけだったそうですが、露店にはカラジッチのTシャツがあったり、カラジッチの行動をたたえる歌をうたっている人がいたりしているのを目撃したんだって。10年後もこれが繰り返されるのだろうか？とか、民衆のヒーローの誕生なのか？とか思ったらいいです。(適当に流せばいいと思います。)要するに、歴史の影響力は凄いつてことだよ。結局のところ、歴史は、正しいところも間違ったところもあるけど、確かに存在しているということらしいです。

カラジッチは彼を追うものの常に一步先を行く謎の存在だったんだって。でも、彼は最終的に2008年につかまってしまいます。彼がなんで、こんなにも長いこと逃れることができたのかといえば、彼を信じ、彼の考えを信じた人々の支援があったかららしいです。変装したり、名前もわからない街に住んだり・・・etc。多くの被害者やこれらに関係のない人々は、彼のつかまる望みをあきらめたそうです。一方で、こういう人もいたそうです。なんで、イラクやアフガニスタンのような重要なことに支援しないで、人一人を追っているのか？と考えた人たちです。

まあ、著者は、カラジッチを捕まえなくてはいい理由が二つあると考えていたそうです。一つは、正義を守るためだそうです。真実は明確にされ、責任は分担されなくてはなら

*2 第二次世界大戦下のユーゴスラビアにおける、セルビア将兵によって組織された、ナチス・ドイツへの抵抗組織。

*3 クロアチアに存在した民族主義団体。ファシズム政党でアンテ・パベリッチを指導者とし、クロアチア人による独立国民国家の樹立を目指したそうです。

ないんだって。もう一つは、あらゆる国籍の地域、人々が自由に動けるようにしなくてはならないからだそうです。(人種によって争ってはいけないってことなのかな・・・よくわからないけど、まあ。) 過去と現在に区切りがつけられなくてはならない。

最後は、今の事です。ハーグ裁判所で、カラジッチの、多くの人々に影響を与えた戦争での役割をはっきりしなくてはならない。それと、人々は、20世紀のヨーロッパの歴史の暗黒の章(よくわかってない部分って意味だね。)をはっきりさせた歴史を書き残すことを望んでいるそうです。

こんなところかな。たぶん、だいたいあってると思う。by まつ